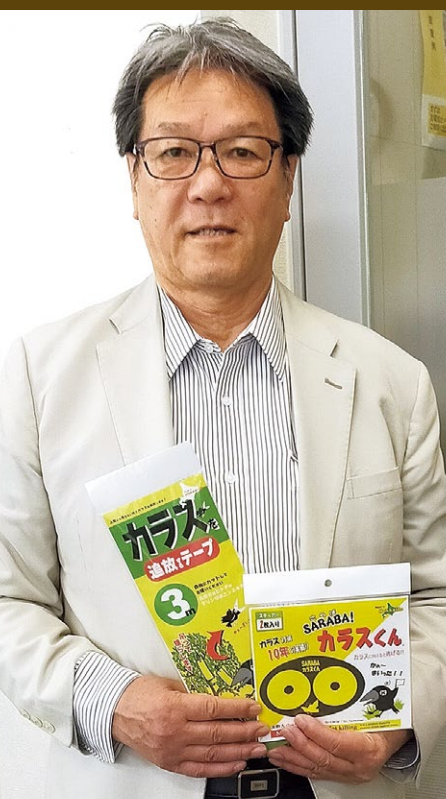


厄介者のヒトデから効果抜 「小さな会社」が「大 北海道環境バイ



▲三國康二社長。最近もNHKのEテレに出演するなど、精力的にカラス対策を訴えている

■北海道環境バイオセクター
011・640・5288

北海道環境バイ

前から知る人ぞ知るロングセラーで、みんなさんの情報番組など、多くのメディアで紹介していただいているのですが、オンエアの時間が早朝だったり、大きなニュースが入って時間が短縮されたりと、なかなかPRのチャンスをつかめず現在に至っています。



▲筆者も愛用しているストラップ

ご覧のとおり小さな会社で営業マンもいませんから、発信力も限られていて……
そう謙遜するが、同社の発見は大きなものだった。元々はヒトデによる食害に悩むオホーツクのホタテ業者から、駆除したヒトデの処置を相談されたことがきっかけだったという。

「ヒトデとおがくずなどを混ぜて分解した結果、堆肥化に成功しました。ヒトデが原料の堆肥は、世界でも例を

見ないものだと思えます。その堆肥の近くにカラスが寄り付かなくなったことに気付き、本格的な研究を始めたのです」
当時はヒトデに関する文献がほとんどなかったものの、地道に数少ない資料を渉猟。印刷会社の協力のもと、ヒトデから抽出したエキス（マリンサポニン水）に特殊なインクを混ぜ、ついにカラスが嫌がる発光物質を作り出したのである。

このほか、同社では、同じくヒトデ由来の液体塗料「バードコレンジャー」も開発。こちらは空港や原発などの現場で使用され、主にバードストライク対策で顕著な効果を発揮している。

群のカラス忌避剤 きな発見」 オセクターの挑戦



カラスが嫌う発光物質

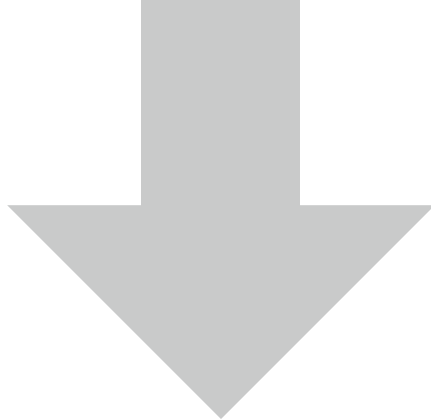
筆者はカラスとの相性が悪く、何度も襲撃された経験がある。あるときは凶暴な数羽に猛攻撃され、思わず民家の玄関先に逃げ込んだ（もちろん住人に事情を説明して）のだが、数分後に外へ出たところ、待ち構えていたように再び鋭い爪で頭をつつかれ、その執拗さに慄然とした。当時の

恐怖がトラウマになっており、怒気を含んだ野太い鳴き声を聞くと足が竦んでしまう。やたらとカラスを怖がる筆者に同情し、知人がプレゼントしてくれたのが「SARABA Aカラスくん」という商品だ。ステッカーに印刷されている特殊な黄色いインキが反射すると、カラスが退散

するという触れ込みで、実際に試してみると、確かに効果があつた。以来、カラスの縄張りを通る際には、バッグにストラップを結び、お守りがわりに使用している。
その製造元である北海道環境バイオセクターという会社が、たまたま弊誌のオフィスからすぐ近くにあると知り、三國康二社長を訪ねてみた。

初夏はカラスの繁殖期。殺気立った親カラスに襲われ、怖い思いをした経験を持つ人は少なくないだろう。また、ゴミや家庭菜園などが荒らされる被害は後を絶たず、生ゴミの散乱は、市街地へクマを誘引する原因にもなりかねない。
そんな悩ましいカラス対策に有効な忌避剤を生み出したのが、札幌の円山エリアにある北海道環境バイオセクター（中央区南1西19）だ。その原料は厄介者のヒトデであり、研究過程での「偶然の産物」であったという。三國康二社長に開発秘話を聞いた。

（フリーライター・内海達志）



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから
TEL 011-644-0101
(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)